Close-up

子ども議会を開催しました

8月25日、区役所5階議場で、「子ども議会」を開催しました。

「子ども議会」は、子どもの意見を区の施策に反映させ、子どもたちが安心して暮らせるまちづくりの推進を目的に、開催しています。

区立中学校10校の生徒20人が「子ども議員」として、地域のさまざまな課題などについて、区へ提案を行いました。



▲子ども議会の様子

尾久図書館で「こどもはじめて認知症教室」を開催しました

9月26日、尾久図書館とチームオレンジ元気かいの共催で、「こどもはじめて認知症教室～認知症サポーター養成講座～」を開催しました。

9月21日の「世界アルツハイマーデー」の普及啓発として開催したこのイベントは、小学生と保護者を対象に、認知症に関するクイズ・絵本の読み聞かせ、高齢者疑似体験などを行いました。

参加者は、一生懸命手を挙げてクイズに答えたり、足におもりを付けて館内を歩く体験などを通して、認知症や、身近な高齢者への理解を深めている様子でした。



▲認知症に関するクイズに参加しました



▲足におもりを付け、歩きにくさを体感しました

冬も!あらかわ遊園へ行ってみよう!

あらかわ遊園では、今年の冬もさまざまなイベントを開催します。今回は、おすすめのイベントをご紹介します。みんなも、お友達と一緒に遊びに行ってみよう!

クリスマスオーナメントをつくろうワークショップ



クリスマスオーナメントにお絵描きして、あらかわ遊園のクリスマスツリーに飾ろう。

世界に一つだけのオリジナルオーナメントを作ろう!

日時●12月5日(土)①午後2時～、②午後3時～、③午後4時～(1日3回・各20個)

場所●あらかわ遊園内ふれあいハウス

あらかわ遊園クリスマスマーケット2026



クリスマス関連の物販(雑貨・グッズ)、ワークショップ、飲食などのブースやキッチンカーを出店するほか、音楽やダンスなどのステージイベントを開催します!

※開催期間中は、荒川区の小・中学生の皆さんは入園無料です。来園する際は、荒川区在住が確認できる証明書類を持参してください。

日時●12月12日(土)・13日(日)各日午前10時～午後7時

場所●あらかわ遊園内水あそび広場前、ふれあいハウス横など

クリスマス缶バッジをプレゼント

あらかわ遊園オリジナルのクリスマス缶バッジをプレゼントします! どれがもらえるかはお楽しみに。

※なくなり次第終了

※数量限定のため、種類は選べません

期間●12月19日(土)～25日(金)

※12月22日(火)を除く

場所●あらかわ遊園入園ゲート

「あらかわミラクルLOVE!」無料上映会

荒川区を舞台にした、話題の映画「あらかわミラクルLOVE!」の上映会を行います。

日時●11月21日(土)①午後4時30分～、②午後6時～

場所●あらかわ遊園内ふれあいハウス

ヒツジを特別公開



来年はヒツジ年! どうぶつ広場に、普段は見られない、サフォーク種のヒツジがやって来ます!

期間●12月9日(水)～令和9年2月1日(月)

場所●あらかわ遊園どうぶつ広場

ARAKAWA KIRAKIRA PARADE



キラキラ光るパレードカーが園内を巡り、華やかに彩ります!

日時●12月19日(土)・20日(日)各日午後5時～

ようこそ!

吉村昭記念文学館 ～吉村昭と文学の魅力～

vol.7



お墓のある越後湯沢(新潟県)は、吉村の別荘があった場所だよ。

[問合せ]吉村昭記念文学館 ☎(3891)4352

吉村昭没後20年

今年は、吉村昭が亡くなってから、ちょうど20年です。今回は、その人生を読者のみなさんと振り返ってみたいと思います。

吉村昭は昭和2(1927)年5月1日、現在の東日暮里六丁目に生まれました。昭和9(1934)年、第四日暮里尋常小学校(現荒川区立ひぐらし小学校)に入学しました。その後、東京開成中学校(現開成中学校・高等学校)に進学しますが、14歳の時に肺の病気にかかってしまいます。17歳で母を病気で亡くし、18歳の時に空襲で家を失い、さらには父も病気で亡くしました。自分の病気、家族の死、戦争の体験を、吉村は小説家として作品に何度も描いています。

21歳の時、大きな手術を乗り越えた吉村は、学習院大学に入学し小説家を目指すようになります。その後、大学の文芸部で出会った津村節子さんと結婚します。結婚後も、二人は小説を書き続けました。昭和40(1965)年に、津村さんが芥川賞を受賞、翌年には吉村が「星への旅」で太宰治賞を受賞、「戦艦武蔵」がベストセラーとなり有名になります。昭和44(1969)年には、三鷹市井の頭に家を建て、しばらくして、庭に書斎を建てました。小説の取材や講演会で旅に出ても、「早く書斎に入って机の前に坐りたい」と思うほど、吉村にとって書斎は大切な場所となりました。この書斎は、吉村昭記念文学館で再現されていて、実際に椅子に座り、吉村が作品を書いた雰囲気を味わえるようになっています。



▲吉村昭

平成17(2005)年に、病気のため入退院を繰り返していましたが、翌年7月31日、79歳で三鷹市の自宅で息を引き取りました。入院直前まで短篇小説「死顔」の執筆を続けていました。

吉村は、生前に自分で越後湯沢(新潟県)にお墓を建てていました。お墓には、今も吉村の作品を愛する読者たちが、花を手に絶えず訪れています。

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
R70 古紙パルプ配合率70%再生紙を使用